



## 沖縄宮古島添道(そえどう)サガリバナ群生地で南国季節の花園づくり活動

助成区分	植樹	環境保全	調査・研究	教育・啓蒙
満足度	100%	活動の全体目標に対する達成度		90%

実施状況

参加者人数 **5,000人**

### 課題

冬の花としてのツワブキの移植(植栽)がまだ実施されておらず、来年の梅雨時期までにはこれを終えたい。また、植栽ごのサガリバナは、雑草の除去と撒水が大きな課題。サガリバナの根が石段を突き抜け、地層に達するまでの約3年間は、生育管理に不可欠。

### 活動内容

沖縄県宮古島市の添道(そえどう)サガリバナ群生地をフィールドに以下の活動を行った。

- ① 群生地右岸の石段と沈砂池の中に四季の花々を配置(植栽)
- ② 沈砂池の希少種の保護
- ③ 第6回『添道(そえどう)サガリバナ夜のお花見』の開催
- ④ 観光と自然・環境の学習プログとらを開発実践

### 成果

四季の花々の中で、冬に咲くツワブキの植栽がまだ達成できてないが、来年の梅雨時期までには約300個のポット苗を植栽する予定である。初夏のサガリバナ、夏のグンバイヒルガオ、秋のケミズキンバイやタデの一種、春のテッポウユリなど、四季の花々を配置できた。

今年の『夜のお花見』は第6回を数え、10日間で約5,000人の来客があった。回を重ねるごとに内容が充実してきており、前回の反省点を踏まえ、安全でより楽しい、ハブのいない宮古島で、新しい水文化(夏の風物詩・イベント)として定着している。

### 工夫した点

植樹(植栽)活動は、その後の生育管理が最も重要で、雑草の除去と撒水が大きな課題となる。雑草対策として、『草で草を抑える』方法を工夫した。夏の花グンバイヒルガオでサガリバナの間を覆うことで、センダングサやギンネムなどの雑草・雑木の生育を抑えている。十分ではないが、70%の効果が見られる。

撒水については、沈砂池の水をエンジンポンプで吸い上げ、特に雨が少なく日照の強い夏から秋は、植樹(植栽)後の生育管理には不可欠な作業である。

### 今後の課題

今後は、ここ『添道サガリバナ群生地』をフィールドに以下の活動に取り組んで行きたい。

- ① サガリバナ群生地を活かしたエコツアー&環境学習プログラムの展開
- ② マングローブ種子など、地域資源を生かした教材の開発・販売
- ③ これらの活動・事業を日常的に展開できる実施体制づくり